

第3回 酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会議事要旨

1. 日 時 令和元年11月19日（火）午後7時～9時
2. 場 所 酒田市役所 本庁舎 703号室
3. 出席者 酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員

所 属	職 名	氏 名
株式会社阿部製材所	代表取締役会長	阿部 昭
酒田市自治会連合会連絡協議会	会長	阿部 建治
酒田市法人保育園・認定こども園連絡協議会	副会長	阿部 幸子
飽海地区高等学校校長会	会長	五十嵐 文彦
酒田市袖浦農業協同組合	代表理事組合長 (代理：理事参事)	五十嵐 良弥 (佐藤 久則)
一般社団法人日本西海岸計画	代表理事	池田 友喜
学校法人東北公益文科大学	教授	伊藤 眞知子
特定非営利活動法人にこっと理事長	理事長	片桐 晃子
連合山形酒田飽海地域協議会	議長	北川 幸宏
株式会社山形新聞社	酒田支社編集部長	坂本 由美子
特定非営利活動法人元気王国	理事長	佐藤 香奈子
株式会社荘内銀行	酒田事務サポートオフィス スシニアマネージャー	佐藤 由美
庄内みどり農業協同組合	代表理事組合長 (代理：代表理事専務)	田村 久義 (菅原 寛志)
酒田商工会議所	会頭	弦巻 伸
学校法人天真林昌学園酒田南高等学校	校長	中原 浩子
オフィスPOO	代表（中小企業診断士）	渡邊 明代
一般公募	公募委員	阿曾 静香

【事務局（酒田市）】

副市長、企画部長、企画調整課長、企画調整課担当者

4. 議事内容

○酒田副市長あいさつ

- ・本日、第3回目の総合戦略委員会を開催し、委員の皆様より、再度ご意見をいただいた上で、実効性のある戦略としてまとめていきたい。
- ・今後の策定スケジュールについては、本委員会での委員の皆様のご意見に加え、市議会などからのご意見も反映した最終的な戦略としてまとめ、来年にはパブリックコメントを実施し、市民の皆様より広くご意見をいただく予定である。

○意見交換

【人口ビジョンについて】

- ・委員発言 01 国立社会保障・人口問題研究所による人口予測をベースとしていて、概ねこれで良いと考える。
- ・委員発言 02 人口推計のパターン②に基づいて説明を頂いたところだが、2025年に合計特殊出生率が1.5に上昇するのは現実的ではない。別パターンは想定していないのか。
 - （企画調整課長）現戦略では2.07まで段階的に上昇する設定。庁内でもかなり議論があったところだが、国民希望出生率1.8という数字もある中で、一番厳しい、現実的な数値として設定した。
 - （副市長）1.5でもかなり低めと考えている。他の自治体で、もっと低く設定しているところがあればご教示願う。
 - 委員発言 03 他と比較しているわけではない。山形県全体では、少し上がっている。庄内ではなくて、内陸で上昇傾向にある。合計特殊出生率を上げていくためには、それに向けた相当な取り組みが求められる。1.5より下を想定するわけにはいかないという事情はわかるが、20代前半女性の社会減少が大きいという現実もある。今後の施策によって、良い循環を作り出せるような形ができれば良い。
 - （副市長）女性のための施策を強化していく必要がある。
- ・委員発言 04 人口ビジョンについては、技術的な話なので、パターン②をベースにしてよいのでは。戦略の中身について議論していくべき。

【総合戦略素案について】

- ・委員発言 05 I-1-(2)「地域と協調した民間洋上風力発電の整備に向けた検討」についてだが、今後のFIT^{*1}の展望がよくわからない状況。近く入札制度が導入される

ことになるだろう。そんな中で参入する事業者が本当にいるのか。また、電力系統が圧迫されている現状もあり、進めようとしても実現できないのではないか。

※1 FIT…再生可能エネルギーの固定価格買取制度。

→（企画部長）洋上風力については、県が遊佐沖で検討を進めているが、その中では酒田市がエリアに入っていないことから、今後、可能性を検討していくこととしている。ご指摘のとおり、電力系統圧迫を解消するための送電線網の整備も不可欠となるが、港湾の整備も必須である。洋上風力発電について、国土交通省はエリアを定めて重点的に整備する方針を打ち出している。また、経済産業省としてもそれに合わせ送電網の強化を図っていくのではないか。事業者については、現時点で山形県洋上風力発電協議会が立ち上がっている。また、大手企業からの相談も来ている状況。まずは国の促進区域として指定されることが最優先と考えている。

・**委員発言 06** 第1回の資料にあったI-1-（1）「企業とのアライアンスによる取り組みの推進」が無くなったように見える。

→（企画調整課長）I-1-（1）「産業振興まちづくりセンターによる総合的な産業振興」の中で取り組んでいく。

・**委員発言 07** I-3-（3）「日本一女性が働きやすいまちに向けた取り組みの推進」の中に、前回の委員会でアイデアが出た「ママ人材バンク」や酒田市女性活躍推進ポータルサイトに掲載されている「育休代替職員の人材バンクの拡大」も入れ込んではどうか。

→（副市長）前回、ご提案を頂いたママ人材バンクは内部でも検討したところだが、マッチング支援についてはサンロクでも展開しているし、様々な民間事業者によるサービスもある。また、人手不足の中、「育休人材バンク」については、なかなかマッチングが難しい状況。ハローワークでも育休代替の求人があることから、既存制度を活用していきたいと考えている。

・**委員発言 08** 新I-1-（1）「新たな産業やビジネスの創出」において、KPIとして創業件数を設定しているが、その後の伴走支援も重要。酒田市産業振興まちづくりセンター（以下「サンロク」という。）の中で、サポート体制は整っているのか。

また、マッチングについても、コンテナ取扱量増加に連携して、航路のある仕向け地の企業とのマッチングを検討してはどうか。昨年度、取り組まれたサンクトペテルブルク（ロシア）は、ハードルの高い国だと思う。もう少しマッチングしやすい国をターゲットにしてはどうか。

→（副市長）海外への輸出という観点では、庄内柿を酒田港から香港に輸出する取り組みを進めている。

→**委員発言 09** サンロクでは、創業後の相談が増えているようだ。創業後、軌道に乗

るまでの支援は大事なことではあるが、創業した以上、自助努力でやるべきところも大きいと思う。また、輸出に関連して、今後、サンロクで香港の商社や台湾の経済に詳しい方のセミナー等に取り組むという話もあるようだ。

- ・**委員発言 10** KPI として農業産出額が設定されているが、現場で努力してもなかなか上がらない現状がある。どのような考え方で数値を設定したのか。

→ (企画調整課長) 農業算出額については、2018 年度からの総合計画の段階で、指標として設定。2015 年で 197 億円から 2022 年で 232 億円としており、2024 年まで 2 億円上積みと考えている。

→ (副市長) 一人あたり所得を上げていくという議論の中、産業分野では、目標値をかかげ、そこに近づくための効果的な施策に取り組んでいかなければならない。

- ・**委員発言 11** 農業分野は、農協の考えに合致する施策といえるのではないか。米作中心の酒田においては、6 次産業化の取り組みも進める必要があるが、なかなか販路を開拓するのは難しい。

- ・**委員発言 12** 林業分野では、KPI として「木材素材生産量：42,303 m³ (2018 年度) → 60,000 m³ (2024 年度)」が設定されているが、かなり頑張らなければいけない数字。出口戦略が重要である。例えば、バイオマス関連企業の集積により、D 材^{※2}は足りないくらいである。他方、A 材^{※2}については、世帯数も減少し、需要が減ることが予想されることから、今後難しくなるだろう。国を挙げて都市の木造化を進めようという動きもあるので、「A 材^{※2}の需要拡大」、「都市の木造化の推進」といった記載を入れてはどうか。また、木材の出口をつくっていくため、酒田港からの木材輸出についても業界では検討していることから、輸出についても検討願いたい。

※2 A～D材…木材を品質(主に曲がりなどの形状)や用途によって分類する際の通称。基本的に、A材は製材、B材は集成材や合板、C材はチップや木質ボードに用いられる。D材は搬出されない林地残材などを言い、木質バイオマスエネルギーの燃料などとして利用することが期待されている

→ (副市長) 県庁ロビーも木質化が進んでいる。酒田市でも地域の木材を活用する方針があることから、ご提案の内容について検討していきたい。

- ・**委員発言 13** さまざまな会合で、祭り、料亭文化といった酒田の昔の賑わいをもう一度という声が聞かれる。また、子供の教育については 10 年後、20 年後を見据えて取り組むべき。中学生時代からパスポートを持たせるなど視野を広げ、それによって酒田の良さを発見できるのではないか。観光面では、ジオパーク、松尾芭蕉、戊辰戦争等と絡めてもっと手を打てると思うが、撤退が決まっている「かんぼの宿酒田」の件が一番心配である。前回もお伝えしたが、酒田市が買い上げ、公益大生 1 年生用の学生寮にしてはどうか。

→ (企画調整課長) パスポートについて、酒田市では公益大生に対する取得支援を実施している。また、県でも 19～29 歳の初回取得者に対して支援しており、市も 11

月から受付を開始したところ。戊辰戦争は、昨年度、明治 150 年として、松山地域で多くのセミナーが開催されたところだが、ジオパークの部分含め、基本目標IV-1-(6)「八幡、松山、平田地域と飛島の地域力強化」の中で進めていく。「かんぼの宿酒田」の件は、来年度、公募で売りに出すと聞いている。酒田は、鶴岡に比べ宿泊施設が少ないため、引き続き観光の用途で活用する事業者を引き継いでほしい旨は日本郵政側に伝えていきたいと考えている。

- ・**委員発言 14** 若者が定住する目的は、やはり仕事。若者が働きたい仕事をどう作り出すかに注力するべきだ。KPI で創業件数 150 件という設定があるが、一般に新規企業が 1 年後に残る割合は 40%、5 年後は数パーセントと言われていることから 150 社の起業があっても数社しか残らない。もっと目標数値大きくするべきではないか。何かにチャレンジする機運を高めるための施策が必要である。
- ・**委員発言 15** インバウンド、観光の面で問題になるのは、酒田にはお金を使う場所が無いということ。カードが使えないところも多く、そもそも受け入れる体制ができていない。行政というよりも民間が頑張るべき部分であるが、インバウンド推進に向け一緒に学ぶための仕組み、環境づくりを進めていく必要があるのではないかと。また、先ほど意見のあったパスポート支援という点については賛成である。子供も外に出て初めて酒田の良さに気づくのではないかと。
 - (副市長) お金を落とすところがないというご指摘については、おもてなし市民会議や商工会議所等でも進めているところ。小さい頃から海外を見たほうが良いというご意見については同感。
 - (企画調整課長) 創業件数については、担当課と話して、もう少し高い目標としたい。I-3 (1)「テレワークを活用した就労の推進」にも取り組んでいく。観光消費については、今年度、公益大に委託し、市内ホテルでのアンケートを取りながら分析しているところであり、KPI として検討したいと考えている。キャッシュレスについては、国の動きもみながらどんどん進めていきたい。アウトバウンドの関係では、今年度庄内空港～成田空港間に LCC が新規就航しており、今後もさらなる拡大に向け検討していきたい。
- ・**委員発言 16** テレワーカーの推進について、サンロクでも取り組まれているが、受け入れる企業が無いことが課題。仕事をどのように切り分けられるかわからない。既存の企業がやろうとするとコストがかかってしまう。テレワーカー育成と同時に、テレワーカーの受入先企業の開拓も一緒に進めるべきだ。
- ・**委員発言 17** 保育士不足が問題となっているが、育児中でも保育士になるために勉強している方もいるし、何歳になっても学ぶことができる。足りないというだけではなく、保育士は誰もが受験できることを発信すべき。また、基本目標Ⅲに位置付けられ

た施策の順番の意図は。

→（企画調整課長）結婚から、ライフステージに応じた順番となっている。

・**委員発言 18** 中学2年の職場体験で保育士の魅力に気づき、実際に保育士になった方もいる。そのような魅力発信も必要だ。また、質の確保は課題となるが、県の事業で「子育て支援員」として認定を受けられる研修も実施している。

・**委員発言 19** 子育て世代の30～40歳代のUターン層は、酒田での教育をどう感じているのか。戻ってくる方が魅力を感じるような酒田の教育になれば良い。高校では進学後に戻ってくるために、地域の魅力を伝える取り組みを進めている。酒田で働くことの魅力・情報を伝えるとともに、東京で働くことも伝え、生徒に選択させている。地域でいきいきと働く人をロールモデルにできれば良い。

・**委員発言 20** 示していただいた総合戦略の内容全てに取り組むことが果たして可能なか。どの自治体も何年も前から取り組んでいるが、効果的な手段がなく苦しんでいる。何かに特化した取り組みが必要では。例えば、シングルマザーに徹底的にやさしい街が良いのではないかと思う。江戸川区が住宅面で支援するなど取り組んでいる。子供を増やすためには、子育て環境が重要。親が安心して子供を産み育てられる環境をつくることを徹底してはどうか。

高校生の就職という点では、求人条件が県内外で全く違う。また、県内の求人票が出るのが遅く、先に出された県外の条件が良いところに惹かれてしまっている。ここが改善されると違うのでは。

また、夢を持つ子は外に出ていく。残りたいと思えるまちがどのようなものなのか、高校生に話を聞くべきだ。

観光客増が定住者増に単純には繋がらない。総合戦略全体的にメリハリをつける必要があると思う。

・**委員発言 21** IV-2- (2)「健康寿命の延伸につながる風土づくり」は、大事なテーマであり、高齢になってから頑張ろうと思っても遅い。健康経営など、働く方へのアプローチを考えるべきだ。死因の1/2はがんなので、ライフスタイルの面で、がんと向き合えるよう、がん教育も必要では。

また、「・中町にぎわい健康プラザ等の運動・健康増進施設の利用促進」についてだが、利用促進と健康になることは本当に相関関係にあるのか。研究機関を入れた調査を行ってはどうか。

→（企画調整課長）健康経営についてはぜひ取り入れたいと考えている。また、ご指摘いただいたような調査も検討していきたい。先日、大規模な予防歯科の会議があったなど、機運は高まっていると思う。病気にならない風土づくりに取り組みたい。

・**委員発言 22** 基本目標Iや基本目標IVで、Society 5.0を見据えアドバイザーチームを設置することされているが、KPI「実現したアドバイザーチームの提言

数：5年間で1件以上」で本当によいのか。スピード感が無い。

→（企画調整課長）アドバイザーチームに関して、まずは庁内での課題抽出を進めていきたい。専門家と市で抱える課題の解決のためのマッチングを進めていきたい。KPIについては検討する。

- ・**委員発言 23** ママ人材バンクについて、先ほど副市長から発言のあった民間サービスは、単価が低く、仕事として成り立たないレベルだと思う。顔が見えない県外企業ではなく、地域の企業とママがつながりを持てる場になればよい。また、テレワーク推進という観点では、企業側にもオウンドメディア^{※3}の運営セミナーなどが必要だと考える。

※3 オウンドメディア…自社発行の広報誌やパンフレット、インターネットの自社ウェブサイト・ブログ等

→**委員発言 24** テレワークしやすい業種としにくい業種があり、地方ではフェイストゥフェイスのビジネスモデルが主流。首都圏の仕事を酒田でやる環境づくりが必要になるが、前提として、そもそも首都圏の会社で働く酒田の若い人が必要。そのため、酒田の子どもには、テレワーク可能なIT関連の仕事について教えていくべきと考える。先ほど発言があった、中学生の就業体験は良い機会だと思う。

- ・**委員発言 25** III-2 (1)「子育て世代のニーズに応じた保育の充実」について、病児病後児保育についても充実していくという理解で良いか。

→（副市長）そのとおり。わかりやすく書くようにしたい。

- ・**委員発言 26** 東北公益文科大学には、残念ながら女子学生が少ない。今年度、入学者が増えたが、女性は3割程度。他県から来た女子学生が酒田市で働きたい と思っても、仕事についての情報が無いという声も聞く。市全体が、女性が活躍できる街になることで、女子学生が集まるようになればよい。I-3-(3)「『日本一女性が働きやすいまち』に向けた取り組みの推進」は、一つの施策としてではなく、もっと前面に押し出すべきだ。総花的になるのかもしれないが、あらゆる部分に記載していくべきである。男性の保育士もいる。職域の拡大や多様性のある働き方が見えるようにして若い人にアピールすべき。

出生率に関しては、専業主婦よりも働いている女性の方が高い傾向がある。2人目の出産に踏み切るかどうかは、夫の協力の度合いによるところが大きい。ジェンダーを意識して至るところに書き込むべきだ。